

**Hair cosmetic for preventing dandruff - contains pasteurised ethyl alcohol, lecithin, propyl gallate(s), erythroic acid and nordihydroguaiaretic acid, and salts of guaiac acid, erythroic acid and nordihydroguaiaretic acid**

**Patent Number : JP10158126**

*International patents classification : A61K-007/06*

**• Abstract :**

JP10158126 A Hair cosmetic for preventing dandruff contains pasteurised ethyl alcohol which has an antibacterial effect. An effective component such as lecithin, ascorbic acid, erythroic acid and nordihydroguaiaretic acid are included in the composition. Salts of guaiac fat, erythroic acid and nordihydroguaiaretic acid are also included in predetermined amount.

ADVANTAGE - Composition is safe and has antibacterial and disinfectant effect. (Dwg.0/0)

**• Publication data :**

Patent Family : JP10158126 A 19980616 DW1998-34 A61K-007/06 4p \* AP: 1985JP-0082069 19850417; 1997JP-0190359 19850417

Priority n° : 1985JP-0082069 19850417; 1997JP-0190359 19850417

Covered countries : 1

Publications count : 1

**• Patentee & Inventor(s) :**

Patent assignee : (SHIS ) SHISEIDO CO LTD

**• Accession codes :**

Accession N° : 1998-393357 [34]

Related Acc. N° : 1986-322214

Sec. Acc. n° CPI : C1998-119210

**• Derwent codes :**

Manual code : CPI: B04-B01B B05-B01P B10-E04D B10-G02 B14-R02 D08-B E07-A02F E10-E02D2 E10-E02D4

Derwent Classes : B05 D21 E19

Compound Numbers : 9834-10501-M

9834-10501-M R00245-M R00245-M  
R01833-M R01833-M R04639-M R04639-M  
R06288-M R06288-M

**• Update codes :**

Basic update code : 1998-34

**THIS PAGE BLANK (USPTO)**

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平10-158126

(43)公開日 平成10年(1998) 6月16日

(51)Int.Cl.<sup>6</sup>

識別記号

F I

A 6 1 K 7/06

A 6 1 K 7/06

審査請求 有 発明の数1 書面 (全 4 頁)

(21)出願番号 特願平9-190359  
(62)分割の表示 特願昭60-82069の分割  
(22)出願日 昭和60年(1985) 4月17日

(71)出願人 000001959  
株式会社資生堂  
東京都中央区銀座7丁目5番5号  
(72)発明者 坂本 哲夫  
横浜市港北区新羽町1050番地 株式会社資  
生堂研究所内  
(72)発明者 池田 隆  
横浜市港北区新羽町1050番地 株式会社資  
生堂研究所内  
(72)発明者 植原 計一  
横浜市港北区新羽町1050番地 株式会社資  
生堂研究所内  
(74)代理人 弁理士 ▲高▼野 俊彦 (外1名)  
最終頁に続く

(54)【発明の名称】 頭髮化粧料

(57)【要約】

【課題】 抗菌剤、殺菌剤の使用量が少なく済み、安全性に優れ、ふけ防止効果の高い頭髮化粧料を提供する。

【解決手段】 エチルアルコールを除く殺菌、抗菌作用を有する化合物の1種又は2種以上を合計で頭髮化粧料全量に対して0.00001~0.5重量%と、下記の群から選ばれた物質を有効成分として1種又は2種以上を合計量で頭髮化粧料全量に対して0.005~1.0重量%とを配合することを特徴とする頭髮化粧料。

- (1) レシチン
- (2) アスコルビン酸
- (3) エリソルビン酸
- (4) グアヤク脂
- (5) ノルジヒドログアイヤレチック酸
- (6) 没食子酸プロピル
- (7) アスコルビン酸の塩
- (8) エリソルビン酸の塩
- (9) ノルジヒドログアイヤレチック酸の塩

## 【特許請求の範囲】

エチルアルコールを除く殺菌、抗菌作用を有する化合物の1種又は2種以上を合計で頭髮化粧料全量に対して0.0001~0.5重量%と、下記の群から選ばれた物質を有効成分として1種又は2種以上を合計で頭髮化粧料全量に対して0.005~1.0重量%とを配合することを特徴とする頭髮化粧料。

- (1) レシチン
- (2) アスコルビン酸
- (3) エリソルビン酸
- (4) グアヤク脂
- (5) ノルジヒドログアイヤレチック酸
- (6) 没食子酸プロピル
- (7) アスコルビン酸の塩
- (8) エリソルビン酸の塩
- (9) ノルジヒドログアイヤレチック酸の塩

## 【発明の詳細な説明】

〔産業上の利用分野〕本発明は頭髮化粧料に関し、更に詳しくは殺菌、抗菌作用を有する化合物と特定の物質とを配合してなるふけ防止頭髮化粧料に関する。

〔従来の技術〕一般に、ふけは皮脂線の分泌物・汗腺の分泌物・表皮層の剝離物等からなり、通常は皮脂線等の分泌昂進により発生するが、皮膚に細菌や酵母が感染すると、ふけの発生は病的に助長されるといわれている。このため、従来から抗菌剤を添加した頭髮化粧料がふけ防止のために使用されてきた。たとえば、ふけ防止用薬剤として最も効果が認められているものとして従来からジंकピリチオン（以下ZPTという）が用いられているが、この物質も抗菌剤の範疇に属するものであることは周知である。しかしながら、これら抗菌剤、殺菌剤は安全性に問題があるものもあり、大量に使用することはできるだけ避けることが好ましいと考えられている。

〔発明が解決しようとする問題点〕そこで本発明は、抗菌剤、殺菌剤の使用量が少なく済み、安全性に優れ、ふけ防止効果の高い頭髮化粧料を提供することを目的とする。

〔問題点を解決するための手段〕本発明者らは、上記したような事情に鑑み、安全性に優れ、しかもZPTやその他の殺菌・抗菌剤のふけ防止効果を更に向上せしめた頭髮化粧料を開発することを目的として鋭意研究を重ねた結果、殺菌・抗菌剤と特定物質とを併用した場合に、ふけ防止作用を著しく高め、しかも両者の使用濃度を減少させることを見出した。そして、殺菌・抗菌剤の特定量と特定の物質の特定量との組み合わせにより、ふけ防止効果が飛躍的に向上し、安全性についても改善できることを見出し、本発明を完成するに至った。すなわち、本発明は、エチルアルコールを除く殺菌、抗菌作用を有する化合物の1種又は2種以上を合計で頭髮化粧料全量に対して0.0001~0.5重量%と、下記の群から選ばれた物質を有効成分として1種又は2種以上を合計

量で頭髮化粧料全量に対して0.005~1.0重量%とを配合することを特徴とする頭髮化粧料を提供する。

- (1) レシチン
- (2) アスコルビン酸
- (3) エリソルビン酸
- (4) グアヤク脂
- (5) ノルジヒドログアイヤレチック酸
- (6) 没食子酸プロピル
- (7) アスコルビン酸の塩
- (8) エリソルビン酸の塩
- (9) ノルジヒドログアイヤレチック酸の塩

以下、本発明の構成について述べる。本発明で殺菌、抗菌作用を有する化合物と併用する物質は、

- (1) レシチン
- (2) アスコルビン酸
- (3) エリソルビン酸
- (4) グアヤク脂
- (5) ノルジヒドログアイヤレチック酸
- (6) 没食子酸プロピル
- (7) アスコルビン酸の塩
- (8) エリソルビン酸の塩
- (9) ノルジヒドログアイヤレチック酸の塩

である。アスコルビン酸、エリソルビン酸あるいはノルジヒドログアイヤレチック酸の各塩としては、ナトリウム塩、カリウム塩等が挙げられる。これらの中から1種又は2種以上が適宜選択され、配合される。上記物質の配合量は、合計で頭髮化粧料全量に対して0.005~1.0重量%である。本発明で用いる殺菌、抗菌作用を有する化合物としては、ジंकピリチオン、トリクロロカルバニリド、トリクロサン、サリチル酸、安息香酸ナトリウム、ヒノキチオール、感光素、ハロカルバン、グルコン酸クロルヘキシジン、塩化ベンザルコニウムが挙げられる。これらの中から1種又は2種以上が適宜選択され、配合される。上記殺菌・抗菌作用を有する化合物の配合量は、合計で頭髮化粧料全量に対して0.0001~0.5重量%である。本発明の化粧料には、上記した必須成分の他に配合される通常の成分、例えば油分、紫外線吸収剤、界面活性剤、防腐剤、保湿剤、香料、水、アルコール、増粘剤、色剤、等を必要に応じて適宜配合することができる。本発明の頭髮化粧料とは、頭皮ないし頭髮に使用するものを広く指し、例えばヘアトニック、ヘアリキッド（液体洗髪料）、頭皮用乳液、ヘアクリーム、ヘアシャンプー、ヘアリンス、ヘアスプレー等が含まれる。本発明の頭髮化粧料は低刺激で感作性もほとんどなく、従って長期連続使用も可能である。

〔実施例〕次に、実施例及び比較例を挙げて本発明を更に詳細に説明する。本発明はこれにより限定されるものではない。配合量は重量%である。

実施例1~6・比較例1~3

各種前記特定殺菌・抗菌剤と特定物質とをヘアトニック

に配合し、ふけ防止効果を測定した。表1の処方に基づき、常法によってヘアトニックを製造し、ふけ防止効果を測定した。

(ふけ防止効果測定法) 対象者として22~50才で、ふけの比較的多い男性を60名選びテストを行った。試験開始前に薬剤の無添加のシャンプーで洗髪し、同じく薬剤無添加のヘアトニックで整髪を行わせ、洗髪後2日間に累積したふけを、週に2回1ヶ月間採取し、採取したふけ中の蛋白質量を測定した(コントロール期)。ついでパネルを3名ずつ20群に分け、薬剤無添加のシャンプーと各種前記表示物質及び、殺菌・抗菌剤を添加したヘアトニックを、1ヶ月間使用させた。コントロール

期と同様に週に2回、洗髪後2日間に累積したふけを採取し、蛋白質量を測定した(試料期)。ヘアトニックは毎日1回使用することとし、コントロール期の平均ふけ蛋白質量と試料期の平均ふけ蛋白質量とを比較し、ふけの減少率が

50%以上であった場合.....A

40%以上、50%未満の場合.....B

20%以上、40%未満の場合.....C

20%未満であった場合.....D

とランク付けした。この結果を表1に示した。この結果、各実施例においてはいずれもふけを有意に防止することが認められた。

第1表

成 分	実 施 例						比 較 例		
	1	2	3	4	5	6	1	2	3
アスコルビン酸	0.1								
エルソルビン酸		0.1							
グアヤク酸			0.1						
ノルジヒドログアイヤレチック酸				0.1					
没食子酸プロピル					0.1				
レシチン						0.1			
ジンクピリチオン	0.5				0.5				
トリクロサン							0.1		
感光素 201			0.0001			0.001			0.0001
ヒノキチオール				0.005					
ハロカルバン		0.1						0.1	
エチルアルコール	75	75	75	75	75	75	75	75	75
ポリオキシエチレン(8モル)オレイルアルコールエーテル	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
精製水	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余
効果	B	B	B	B	B	B	C	C	C

#### 実施例7

エチルアルコール55gにポリオキシエチレン(8モル)オレイルアルコールエーテル2g及びトリクロサン0.5g、および香料を適量加え、室温下に溶解させてアルコール相を得た。別に精製水37.3gにグリセリン5g及びアスコルビン酸0.2gを加え加温溶解させた。この水相部にアルコール相を加えて可溶化し、冷却後、色素を適量加えてふけ防止効果のあるヘアトニック

を得た。

#### 実施例8

精製水78.6gに、ラウリル硫酸トリエタノールアミン15g、ジンクピリチオン0.5g、ヤシ油脂脂肪酸モノエタノールアマイド5g、ジブチルヒドロキシトルエン0.8g、グアヤク脂0.1g及び色素、香料を各適当量添加し加熱混合後、冷却し、ふけ防止効果のあるヘアトニックを得た。

フロントページの続き

(72)発明者 小山 純一  
横浜市港北区新羽町1050番地 株式会社資  
生堂研究所内

(72)発明者 堀井 和泉  
横浜市港北区新羽町1050番地 株式会社資  
生堂研究所内

BEST AVAILABLE COPY